

## お米のはなし

お米や稲に関するちょっとした情報・豆知識を専門家が綴る「お米のはなし」の第71弾をお届けします。

(シリーズ担当：R. I.)

### 第71話 その他のイネ害虫

#### イナゴ類・クサキリ類

水田に多いのは、コバネイナゴ (rice grasshopper, *Oxya yezoensis*) です。畔や休耕田の土の中で越冬した卵から孵化した幼虫がイネ科雑草を食べて成長し、移植頃に水田に移動してイネの葉を食害します。他にハネナガイナゴ (lesser paddy grasshopper, *Oxya japonica*) もいます。

クサキリ類 (ヒメクサキリ (northern rice katydid, *Ruspolia jezoensis*) など) は、出穂期に茎を食害するために白穂となります。山間、中山間の畦畔に多く、周囲から侵入します。

子供の頃、収穫前の田圃へ入って、イナゴ取りをしたことを覚えています。イナゴは稲穂にとりついていてあまり動かないので、案外簡単に指で捕まえられました。家に持ち帰ってから、翅と長脚を取り、イナゴの佃煮にして食べましたが、固くあまり美味とは言えませんでした。

#### イネミズゾウムシ Rice water weevil *Lissorhoptrus oryzophilus* Kuschel

年1回の発生で、成虫で越冬し、4月～5月にチガヤ、ススキ、ササなどを食害するが、田植が始まると水田に侵入し、葉鞘に産卵します。幼虫の根部の食害は7月下旬までで、稲の根元に土繭を作って蛹となり、8月中旬には新成虫が羽化して越冬場所に移動します。

#### イネアザミウマ Rice thrips, Paddy thrips *Stenchaetothrips biformis* Bagnall

イネの葉に寄生するアザミウマには数種類あって、とくに空梅雨傾向の年には多発する。成虫は花粉を食べに開花中の籾内に入り、そのまま閉じこめられると黒変米の原因ともなります。

#### イネドロオイムシ (イネクビホソハムシ) Rice leaf beetle *Oulema oryzae* Kuwayama

成虫・幼虫が葉の表面を食害し、白いカスリ状になります。6月中旬から7月中旬に被害が見られます。成虫は4～5mmで藍色の甲虫で、幼虫は5mm程度のナシ形で黄褐色です。年に1回だけ発生します。成虫が草むらにもぐって越冬し、春にイネの葉を食い、卵を産むのです。

#### アワヨトウ Armyworm *Mythimna separata* Walker

年に2～3回発生します。成虫は1回目が5月から6月中旬にかけて現われ、イネの葉を食い、枯葉、刈株、葉鞘に卵を産みつけます。2回目は7～8月です。成虫かさなぎで越冬する場合があります。

## 貯穀害虫

貯穀害虫としてコクゾウムシ、ココクゾウムシ、コナナガシクイ、バクガ、ノシメマダラメイガなどが発生します。コクゾウは成虫が体長3～4mm、赤褐色～黒褐色のゾウムシです。ココクゾウは成虫が体長2.6mmでコクゾウムシの約3分の2の大きさで、かつやや細長い。

### 1. コクゾウムシ Maize weevil *Sitophilus zeamais* Motschulsky

本種は、硬質の食物へ産卵する習性を持ち、コメ、ムギなどの穀物のほかに乾麺やビスケットなどの固形食品の害虫として問題となります。雌は、コメやムギに穴をあけ、その中に1穀粒当たり1個ずつ卵を産みつけます。卵から孵化した幼虫は、蛹になるまでの期間を食物内部で過ごすため、成虫以外のステージは発見しにくい。本種は、世界各地に分布し、日本でも各地で普通に見られます。

### 2. ココクゾウムシ Rice weevil *Sitophilus oryzae* Linnaeus

本種は、穿孔能力が高く、幼虫・成虫ともにコメ、ムギ、トウモロコシなどの穀粒を食害する貯穀害虫として知られており、幼虫は穀粉では成育できない。雌は、穀粒に穴をあけ、その中に1穀粒当たり1個ずつ卵を産み、孵化した幼虫は粒内で成育します。非休眠の幼虫態で越冬し、成虫は3～4月から活動を始めます。多数繁殖すると発熱し、穀物内の温度が上昇するため、冬でも成育し続けることがあります。世界各地に分布し、日本でも各地で普通に見られます。コクゾウムシは飛翔能力を有しますが、近縁のココクゾウムシでわが国の系統は飛翔能力がありません。

### 3. コナナガシクイ Lesser grain borer *Rhizopertha dominica* Fabricius

本種は、良く発達した大顎を持ち、コメ、ムギを破壊的に加害しますが、加工食品での被害は少ない。穀粒間に産卵された卵から孵化した幼虫は、成長に伴い穀粒の内部に潜入します。成虫でも幼虫でも越冬しますが、木材中に穿孔して越冬する習性のある成虫は幼虫より越冬効率が良い場合があります。また、本種の増殖による発熱で穀温が上昇した場合は、冬期においても繁殖を継続することがあります。

### 4. バクガ Angoumois grain moth *Sitotroga cerealella* Olivier

本種は、ムギやコメその他の<sup>かほんか</sup>禾本科の雑草なども食害します。幼虫は麦粒中で越冬し、翌春に羽化します。雌は一生に50～60個産卵し、孵化した幼虫は、穀粒に1頭ずつ食入し、2頭入ることはない。全世界共通種で、全国各地に分布します。

### 5. ノシメマダラメイガ Indian meal moth *Plodia interpunctella* Hubner

本種の幼虫は食性が広く、穀粉、豆類（ダイズ）、ナッツ類などの原料から、動物質を含めたほとんどの加工食品を加害する問題種であり、異物混入のトラブルも多い。孵化後の幼虫は、餌の探索を活発に行い、包装材料のピンホールや隙間から製品中へ侵入することがあります。また、穿孔能力が優れており、包装資材に穴を開けて製品内へ侵入することもあります。

本種が発生している箇所には、幼虫による吐糸が見られます。吐糸で綴られた食品残渣が見られる場合には、本種あるいはその他のメイガ類が生息している可能性が高い。

(参考・引用文献)

国際衛生株式会社 <https://www.kokusaieisei.jp/insect-book/zukan.html>

農研機構・食品研究部門・食品害虫サイト

<https://www.naro.affrc.go.jp/org/nfri/yakudachi/gaichu/index.html>

病虫害図鑑（愛知県） <https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/zukan.html>

---

**発行：(公社)国際農林業協働協会(JAICAF)**  
**〒107-0052 東京都港区赤坂 8 丁目 10-39 赤坂 KSA ビル 3 階**

JAICAF ジェイカフ